

令和3年2月19日

各位

公益財団法人 大山健康財団

理事長 神谷 茂

令和2年度「第47回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第3回竹内勤記念国際賞」受賞者並びに「第47回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和2年度の「第47回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第3回竹内勤記念国際賞」受賞者各1名、並びに「第47回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成30年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は令和3年3月15日（月）午前11時30分から霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館（東京都千代田区霞が関3-2-1）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

令和2年度「第47回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 とおだ こうへい
遠田 耕平

秋田赤十字病院 予防接種センター長 健診部 健診副部長

秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座 非常勤講師（2021.4～）

医師 医学博士（満64歳）

【業績内容】

遠田耕平氏は、1993年～1996年にWHOの医務官としてベトナムでポリオ根絶に従事、2001年～2003年にはインド、ネパール、ミャンマーでポリオ根絶に従事された。

また、2003年～2009年にはカンボジア、2009年～2015年にはベトナムで予防接種計画に従事され、2016年～2018年にはフィリピンで定期予防接種の充実、ポリオ根絶、麻疹、風疹、新生児風疹症候群、B型肝炎、新生児破傷風、日本脳炎、細菌性髄膜炎、ジフテリア、百日咳、などのワクチン接種とサーベイランスに尽力された。

1980年に内戦中のカンボジアで経験した医療ボランティアが熱帯地域の医療に身を

投じるきっかけになったという遠田氏は、ポリオ根絶が宣言されたベトナムで、1996年までの3年間、WHO職員として取り組まれた実績が評価され、2001年、日本政府が、インドにあるWHO南東アジア地域事務所へポリオ対策で派遣した初めての職員とされた。

令和2年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】^{のざき いくま}野崎 威功真 国立国際医療研究センター国際医療協力局保健医療開発課
長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 客員准教授
医師 医学博士 (満50歳)

【業績内容】

野崎威功真氏は、2007年より3年間、HIV高蔓延国のザンビアの農村部を巡り、HIVや結核の治療を拡大するシステムを開発された。

こうした成果をオペレーショナル・リサーチとしてとりまとめ、国際エイズ学会やWHO Bulletinなどに報告され、その成果がザンビアの保健省にも認められ、地方部にHIV治療を広げるための方法として、プロジェクトの手法をベースに「国家モバイルARTガイドライン」が出版された。

また、2013年より、ミャンマーにおいてHIVや梅毒、肝炎や結核などの検査の質の改善や、輸血の安全性向上などを通じた感染症対策の強化に取り組んでこられた。

以上のように、治療率の改善や検査の質の向上、フィールドでの貢献に加え、活動の成果を国際学会や国際誌に発表され、国家ガイドラインやWHOガイドラインに取り込まれるなど、政策面でも大いに貢献されてきた。

国際保健の分野でも、昨今 Evidence informed approach の重要性が強調されており、今後、技術協力の現場においても、オペレーショナル・リサーチや活動の成果を発表していくことが、極めて重要となってきている。

令和2年度「第3回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】^{のなか だいすけ}野中 大輔 国立大学法人琉球大学医学部保健学科 准教授
保健学博士 (満51歳)

【業績内容】

野中大輔氏は、2003年から2年間、JICA青年海外協力隊としてラオス・ウドムサイ県保健局寄生虫対策課に勤務され、マラリア予防のための蚊帳の適正使用、土壌伝搬性寄生虫予防のための手洗い・トイレ使用の普及のための住民に対する健康教育活動に従事された。

帰国後、2006年に東京大学大学院に入学し、ラオスで行った参加型マラリア健康教育介入研究を論文として国際誌に発表され、また、国際寄生虫対策プロジェクトの短期専門家として、ガーナ大学野口医学研究所のカウンターパートを指導しながら、ラオスで行った研究と同様の研究をガーナでも実施し、その成果についても国際誌に発表された。故竹内

勤慶應義塾大学名誉教授の指導を受けながら完成させたこれらの論文により、学校を基盤とした参加型健康教育のアジア・アフリカにおける効果を示された。

ラオスにおける住民のマラリア受療行動の研究は、現在は標準となっている Public-Private Mix（公的医療機関だけでなく、民間の薬局・薬店も疾病対策に活用）導入の必要性を支持するエビデンスとして世界保健機関（WHO）の戦略文書にも引用されるなど、政策策定においても大いに寄与している。

さらに、科研費研究の研究代表者として、小中学校で使用されている教科書を、アジア、アフリカのマラリア流行国（9か国）から収集、学校教科書におけるマラリア健康教育内容を分析し、マラリア予防や治療に必要な知識・技術が十分に学童に教育されていないことを明らかにされるとともに、熱帯国の農村において住民が主体となってプライマリヘルスケアするための地域診断ツールについてラオス国農村を研究地として開発されたほか、2016年からラオスにおける SATREPS 寄生虫対策研究プロジェクトに参加され、マラリア感染が世帯レベルで集積していることを、ラオスではじめて明らかにされた。

その他、ニジェールにおける JICA マラリア対策プロジェクトのインパクト評価をまとめた疫学研究、スリランカにおける学童をヘルスメッセージャーとした母親の生活習慣改善に関する介入研究にも疫学専門家として携わられた。

現在、琉球大学大学院保健学研究科の准教授として大学院教育に関わり、留学生・日本人学生の指導をされており、今後の疫学研究分野で熱帯医学に関わる人材育成を牽引されることが期待される。

令和2年度「第47回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
いまい たかし 今井 孝	群馬大学大学院 医学系研究科生体防御学 助教	マラリアと小胞体ストレス 応答	100万	寄生虫学
かわべ たけし 河部 剛史	東北大学大学院 医学系研究科 准教授	新規の自然免疫型T細胞の機 能制御による新たな感染症治 療戦略の創出	100万	細菌学
きみづか よしふみ 君塚 善文	防衛医科大学校内科学講 座(感染症・呼吸器) 講師	病原体タンパク質ワクチンの 近赤外光を用いた増強作用に 関する研究	100万	細菌学
くるしま じゅん 久留島 潤	群馬大学大学院 医学系研究科細菌学 助教	感染組織模倣培養条件下にお ける腸球菌の抗菌薬感受性と 遺伝子水平伝播	100万	細菌学
こが ともあき 古賀 友紹	熊本大学発生医学研究所 細胞医学分野 助教	炎症記憶細胞を追跡する新規 モデルマウスを用いた炎症メ モリーの機能解析	100万	細菌学

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
つかもと けんたろう 塚本 健太郎	藤田医科大学医学部 微生物学講座 講師	南米アンデス高地にみられる カリオン病の起因菌バルトネ ラ・バシリフォルミスが産生 する新規病原因子の同定	100万	細菌学
はつ た たけし 八田 岳士	北里大学医学部 准教授	テグメント発現分子を標的と する抗住血吸虫薬の探索	100万	寄生虫学
はっとり よりと 服部 頼都	国立研究開発法人国立循 環器病研究センター 脳神経内科 医長	Brain-gut axis に着目した腸 内細菌叢異常に伴う脳卒中発 症メカニズムの解明	100万	細菌学
ひねのや あつし 日根野谷 淳	大阪府立大学大学院生命環 境科学研究科獣医学専攻 准教授	バングラデシュの動物における 新興食中毒細菌 <i>Escherichia albertii</i> の深淫調査	100万	細菌学
みやざき しんや 宮崎 真也	長崎大学熱帯医学研究所 細胞環境構築学分野 助教	マラリア原虫ガメトサイト期 トランスロコンの分子基盤の 解明	100万	寄生虫学
			1,000万	

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電 話 03-3614-7762

以上